

2023年12月1日
令和国民会議（令和臨調）

令和臨調、持続可能な社会保障制度の実現に向けた提言 「将来も安心な日本の医療・介護を考える」を公表

「日本社会と民主主義の持続可能性」の実現をめざす令和国民会議（通称：令和臨調）は、12月1日、持続可能な社会保障制度の実現のため、提言「将来も安心な日本の医療・介護を考えるー持続的な制度の実現に向けた改革ー」を公表しました。

この提言は、「財政・社会保障」部会（共同座長：平野信行、翁百合）が中心となって取りまとめたもので、持続可能な社会保障制度の実現、かつ子育て財源確保の観点から、社会保障の歳出改革において特に重要な「医療・介護保険の給付面の改革」の具体策を示すものです。

詳細は、別添資料をご覧ください。

【別添資料】

「将来も安心な日本の医療・介護を考えるー持続的な制度の実現に向けた改革ー」

資料1：提言本文

資料2：資料

資料3：参考資料

資料4：令和臨調「財政・社会保障」部会名簿



資料は以下サイトからもご覧いただけます。

https://www.reiwarincho.jp/news/2023/20231201_001.html

【令和国民会議（令和臨調）について】

「日本社会と民主主義の持続可能性」をキーワードに、日本社会の人的・知的・制度的な基盤を少しでも豊かにし、次の時代に引き継ぐための有志による運動体。2022年6月19日発足、茂木友三郎、小林喜光、佐々木毅、増田寛也が共同代表を務め、趣旨に賛同する経済界、労働界、学識者から100名を超える有志が結集している。

平成時代から先送りされてきた構造改革課題、特に「統治構造」「財政・社会保障」「国土構想」など、世代や党派、立場を超えて取り組まなければ前に進まない課題に取り組む。単なる「紙づくり」ではなく、超党派の国会議員有志による「日本社会と民主主義の持続可能性を考える超党派会議」、知事有志による「知事連合」、基礎自治体の首長有志による「市区町村長連合」との交流や、学生、メディアとの対話など、改革を一步でも前に進めるために汗をかき、合意形成活動や世論喚起に尽力する。